

ウミネコ *Larus crossirostris* の外部計測値と胃内容物について

小杉和樹*・佐藤雅彦**・吉村正志***・吉村真理子***・坂本里恵****

097-0401 利尻町杵形字富士見町 利尻島自然情報センター*
097-0311 利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館**
097-0101 利尻富士町鷺泊字栄町***
097-0101 利尻富士町鷺泊字栄町 日本野鳥の会道北支部****

Morphological measurements, body mass and Stomach contents in Black-tailed Gull

Kazuki KOSUGI*, Masahiko SATO**, Masashi YOSHIMURA***,
Mariko YOSHIMURA*** and Rie SAKAMOTO****

Informative center for natural environment of Rishiri, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan*
Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan**
Oshidomari, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0101 Japan***
The Douhoku Branch Wild Bird Society of Japan, Oshidomari, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0101 Japan****

利尻島では1988年から西部の民家近くの平野部にウミネコがコロニーを形成し、その後も範囲は拡大し、営巣数は増加している状況にある。1991年までの経過については小杉が報告(小杉1991)しているが、それ以後の状況については調査をしていないため、コロニーの規模については正確に把握していない。当時から、ウミネコの鳴き声による騒音や糞などによる生活環境への被害、昆布乾燥時の糞汚染とエゾバフソウニの食害という漁業被害があるとのことから利尻町は平成元年からウミネコとオオセグロカモメ(*Larus schistisagus*)の有害鳥獣駆除を行っている。これまでの駆除は年間50~300羽であったが、本年(1997年)はウミネコ900羽、オオセグロカモメ100羽を駆除した。筆者らはこのうち78羽について外部計測と胃の内容物を調査したので報告する。

調査に用いた検体は前述したとおり、利尻島西部の新湊及び栄浜地区のコロニーで有害鳥獣駆除されたうちのウミネコ77羽とオオセグロカモメ1羽である。駆除は1997年6月9日から6月30日までの午前6時から午前7時までに二人

のハンターにより行われた(環境庁許可第23号)。計測と解剖はその間の6月13日、20日、24日、27日のそれぞれ午後7時から午後9時までに行った。調査は体重、自然翼長、尾長、ふしよ、露出嘴峰長を測定したのち、解剖して精巣・卵巣の確認による雌雄の判定をし、胃を摘出して内容物を確認した。なお、胃については内容物とともに標本として利尻町立博物館に保管した。計測値は表1のとおりであり、オオセグロカモメ(雄)の計測値も付記した。体重以外の測定値は雌雄でオーバーラップしているものの、雄が雌より平均値では翼長で4.5%、尾長6.7%、ふしよ6.1%、嘴峰長10.1%、体重は24.2%上回っていた。これにより外部計測値と体重を総合的に判断することによって、雌雄の判定ができるものと考えられた。特に、保護やコロニー内等の野外では体重での雌雄判定が有効であるように思われた。

個体の雌雄は、ウミネコ77個体のうち♂は49羽、♀は22羽で、精巣・卵巣の確認ができず不明としたものが6羽あった。6月13日と20日の調査では精巣・卵巣は発達していたが、6月24日と6月27日になると縮小しているように見

表1：ウミネコの測定値

Table 1. Morphological measurements (mm) and body mass (g) in Black-tailed Gull.

	Male			Female			Slaty-backed Gull
	Mean	Range	n	Mean	Range	n	Male
Wing length	385.73	370.00-420.00	49	368.50	350.00-390.00	22	445
Tail length	149.16	128.00-169.00	49	139.82	135.00-149.00	22	200
Tarsus length	58.18	53.00-64.50	49	54.82	50.50-62.60	22	75
Bill length	52.13	47.20-57.30	49	47.16	42.00-50.60	22	63
Body mass	615.18	575.00-690.00	49	495.18	455.00-550.00	22	1400

えた。抱卵斑は雌雄どちらも発達していた。これらのうち初列風切羽が成鳥羽となっていない亜成鳥と思われるのが♂5羽、♀2羽あったが、いずれも抱卵斑が発達しており、繁殖していたものと考えられた。

胃の内容物については魚類（11例）、魚卵（10例）、海藻（9例）、昆虫（7例）、オキアミ（3例）、植物の葉（2例）、カニ（2例、うち1例はオオセグロカモメ）、卵の殻（1例）で、ウニはオオセグロカモメのみで確認された。残りの39個体では、まったく空の状態であったが、これはコロニーでは雛が孵化しており、駆除した時間が早朝であることから、雛に給餌した後ではないかとも考えられる。魚類は骨がほとんどであったが、未消化のものではカジカ類があった。魚卵は海藻とともに確認された例が多く、海藻に産みつけられた魚卵とともに食べているものと思われる。甲虫などの昆虫も植物の葉とともに確認された。オオセグロカモメから確認

されたキタムラサキウニは刺と殻の部分で、その大きさは不明であった。

本調査では筆者らが調査に不慣れなため、結果的に計測値の誤差が大きかったのではないかとされたことから、統計的な検定はしなかった。また、駆除が散弾銃であったため検体が非常に痛んでいたことなどから、翼長については最大翼長での計測が有効であるとも思われた。

今後は調査者の計測精度を高めるとともに計測部位、方法等を検討することが必要と思われた。更に、胃の内容物についても季節及び時間毎の調査が必要と思われた。次年（1998年）も有害鳥獣駆除が予定されており、筆者らはこれらを課題として、より詳細な調査を行うことにしている。

引用文献

小杉和樹、1991. 利尻島におけるウミネコの繁殖地. 利尻研究、10:57-64.



図1：ウミネコの胃

Fig.1 Stomach of Black-tailed Gull.



図2：オオセグロカモメの胃

Fig.2 Stomach of Slaty-backed Gull.